

丸山ダム水源地域ビジョン

丸山ダム水源地域ビジョン策定委員会

平成19年 3月

■ 目 次 ■

はじめに 1

第1章 ビジョンの役割 3

1-1 ビジョンとは 3

第2章 丸山ダム水源地域の特性 9

2-1 水源地域の特徴・資源 9

2-2 水源地域の課題 12

第3章 水源地域ビジョン 15

3-1 ビジョンの方向 15

3-2 ビジョンのコンセプト 15

3-3 ビジョンの実現方策 15

第4章 ビジョンの実現に向けて 35

4-1 ビジョン実現の担い手 35

4-2 ビジョン実現へのステップ 36

はじめに

地域住民によるまちづくりの行動計画としての ビジョンづくり

●丸山ダム水源地域ビジョン策定のねらい

ダムは、洪水の防止や、水を蓄え発電や用水に使うなど、下流の地域に大きな役割を果たし、その発展と安定を支えています。ダム水源地域の活性化には、水源地域の努力とともに、流域全体の人々が理解しあい、支えあう取り組みが求められます。

丸山ダムの水源地域では、これまでも各種の水源地対策が進められてきました。それらは水源地域の社会を支える上で大きな役割果たしてきましたが、少子高齢化などの近年の社会情勢の変化に応じた、新しい視点での取り組みが必要となっています。

そこで、これからの丸山ダム水源地域の活性化に向けて、地域の住民の想いを出発点とし、国土交通省丸山ダム管理所を始め、行政や民間企業、NPOなど地域の団体とともにまちづくりを進めるための、行動計画としてのビジョンをつくりました。

地域住民の想い

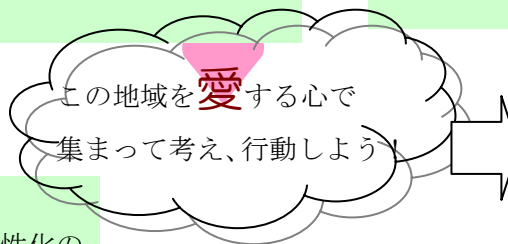
- ・歴史あるまちを、次の世代に伝えたい
- ・農地や山林、町並みを守り、美しいまちにしたい
- ・誰もが誇りと夢をもって暮らせる地域にしたい
- ・もっと川を身近に感じて暮らしたい
- ・ささやかなもてなしや楽しい交流をしたい

地域の行政、グループ・団体の想い

- ・地域の持続的発展を図りたい
- ・住民参加による協働を進めたい
- ・地域経済を振興したい

ダム管理者・事業者の想い

- ・治水、利水に加え、地域活性化の核として、ふさわしい役割を果たしたい

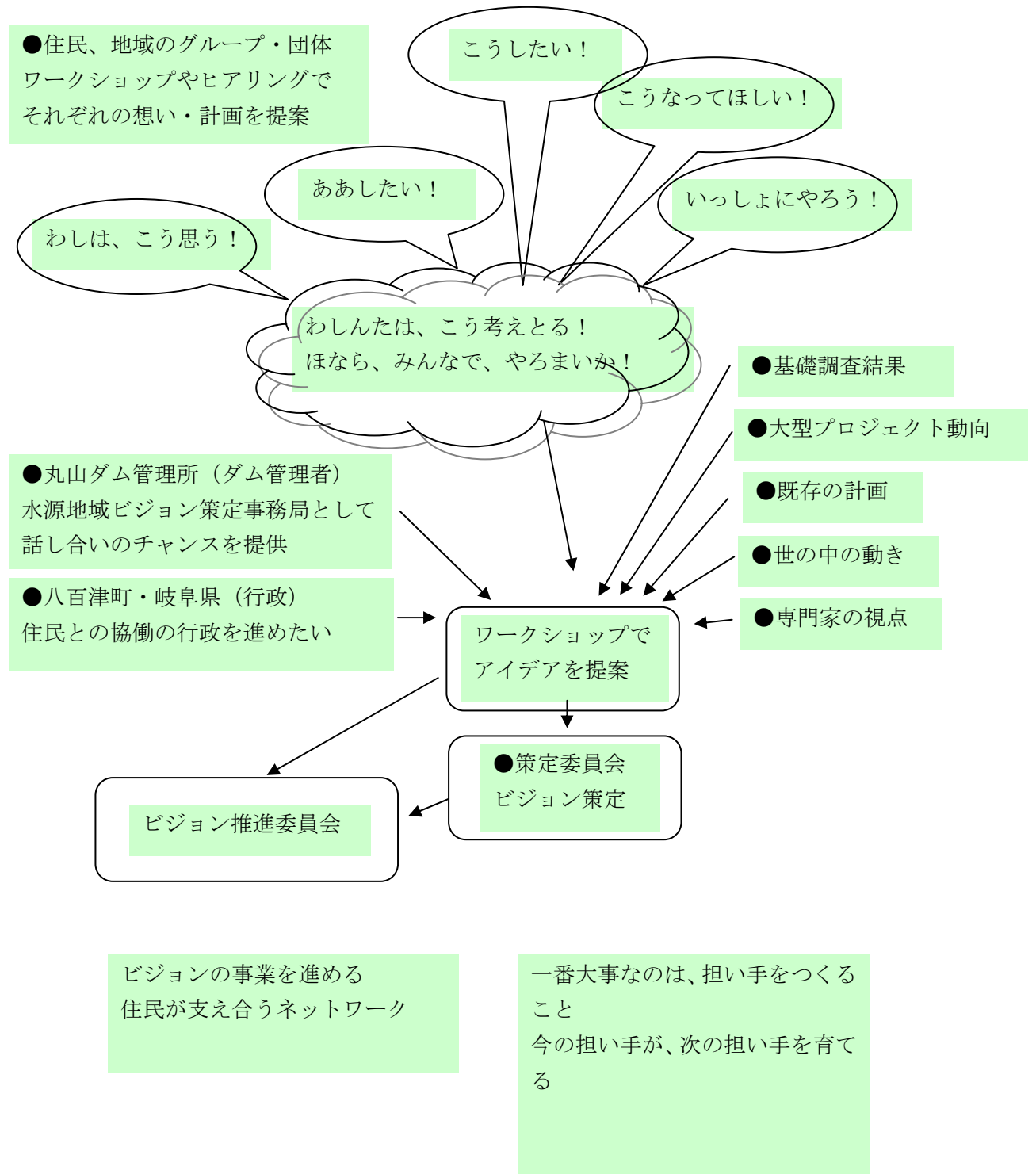


そのために、みんなで
ビジョンを持とう！

- ビジョンに基づく、
- 水源地域の人々の自主的、自立的な取り組み
 - 下流域の人々との上下流交流

水源地域の活性化

ビジョンづくりと実現への流れ



1. ビジョンの役割

1-1 ビジョンとは

●ビジョンは、みんなでまちづくりに取り組むためのよりどころ

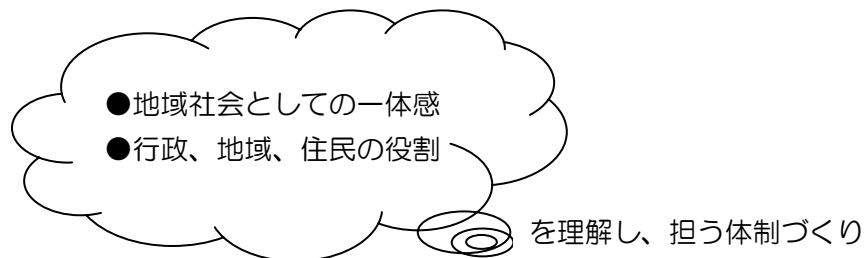
地域社会には、行政はもちろんのこと、個人で、あるいはグループ・団体をつくり、夢を描いて地域づくりに取り組んでいる方がたくさんいます。

一方で、同じ地域の中にも、互いにどういう活動をしているのか、どんな課題を抱えているのか、など、詳しく知る機会はそう多くはありません。

皆が心に持つ、地域をよりよくしていきたい、という想いを分かち合い、足並みを揃えて行動すれば、今までにない展開が始まると考えられます。

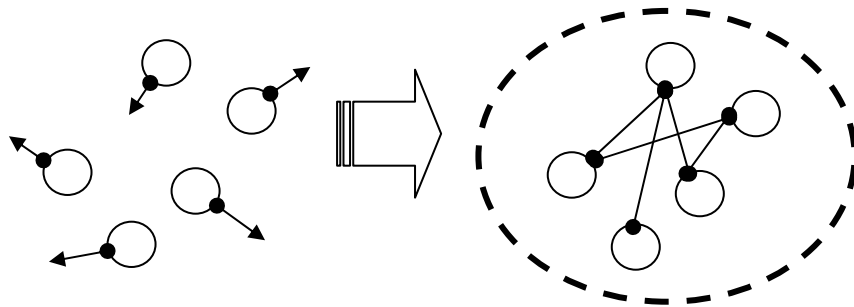
そのためには、まず、自分たちがどういうまちづくりをめざすのか、多くの方に理解してもらおうと同時に、他の人やグループ・団体が、どのようなまちづくりをめざしているかを、理解・共有して、人と人とのつながりのなかで支え合うことから始めなければなりません。

そこで、このビジョン策定をきっかけとして、水源地域という枠組みを生かして、地域社会としての一体感をまちづくりに取り組む方々が感じながら、行政、地域社会、住民が、それぞれの得意分野で役割分担するしくみづくりを進めることが大切となります。



人と人とのつながりを深める

ビジョンづくりは「縁結び」の仕掛け



●ビジョンに期待される役割

ビジョンは、これからまちづくりを進めていくための「道しるべ」となるものです。

現実のまちづくりは、ビジョンに描いたとおりに進むというものではないですが、大きな目標に向かってひとつひとつの小さな目標を達成する手順や、まちづくりに取り組む時間の目安を立てておくことで、少しずつでも前に進めるようにするものです。そして、なにより、みんなで知恵を集めてつくった目標を公開することで、まちづくりについてイメージを共有できるようになります。

●ビジョン策定にあたっての基本的な考え方

ビジョンの実現を進めることにより、次のようなまちづくりをめざします。

①地域の特性・個性を生かす

水源地域の豊かな自然環境の保全など、水源地域の個性と暮らしを守り、育てていきます。

②地域内の交流・連携の基盤をつくる

自然環境や農地・山林を保全し、水資源の管理と活用を進め、木曽川が育んだ、文化や歴史を生かして流域間の交流を進めるなど、流域全体の人々の理解と協力による持続的発展を図ります。

③地域住民の主体的な活動を支援する

高齢化、産業構造の変化など、水源地域の社会経済状況の変化へ対応し、地域住民や地元の経済団体などの考えに基づいたまちづくり活動を助長します。

④できるところから実行し、定期的に見直す

地域の住民が主体となって、できるところから自治体や関係機関等の連携による地域づくりを進め、定期的に進め方を見直します。

●ビジョン策定の参加者

このビジョン策定には、関心のある方ならどなたでも参加できるよう、広く呼びかけて進めてきました。策定にあたっては、ビジョン策定委員会を設置し、対象地域の行政、産業界、住民グループ・団体等の主要なメンバーを中心に構成しました。

委員会のもとにワーキンググループ会議（WG会議）を設置し、委員会に諮るビジョン案を検討・作成しました。

委員会及びWG会議の運営にあたっては、国土交通省丸山ダム管理所が事務局となり、案のとりまとめなどを行いました。

どなたでもご参加いただける議論の場として、ワークショップを開き、できるだけ策定の進め方を公開し、幅広い住民参加と情報公開を図りました。

●ビジョンの達成時期

5年以内に達成するものを「短期」、5年から10年以内に達成するものを「中期」、10年を超えて実現に取り組むものを「長期」と分けてとらえます。

【短期】条件が揃っているなど、実現性が高く、早急に取り組むことができるものや、長期間継続するものでも、容易に手が着けられるものは、達成時期を「短期」として位置づけ、概ね5年の事業期間内に実現するものとして取り扱います。

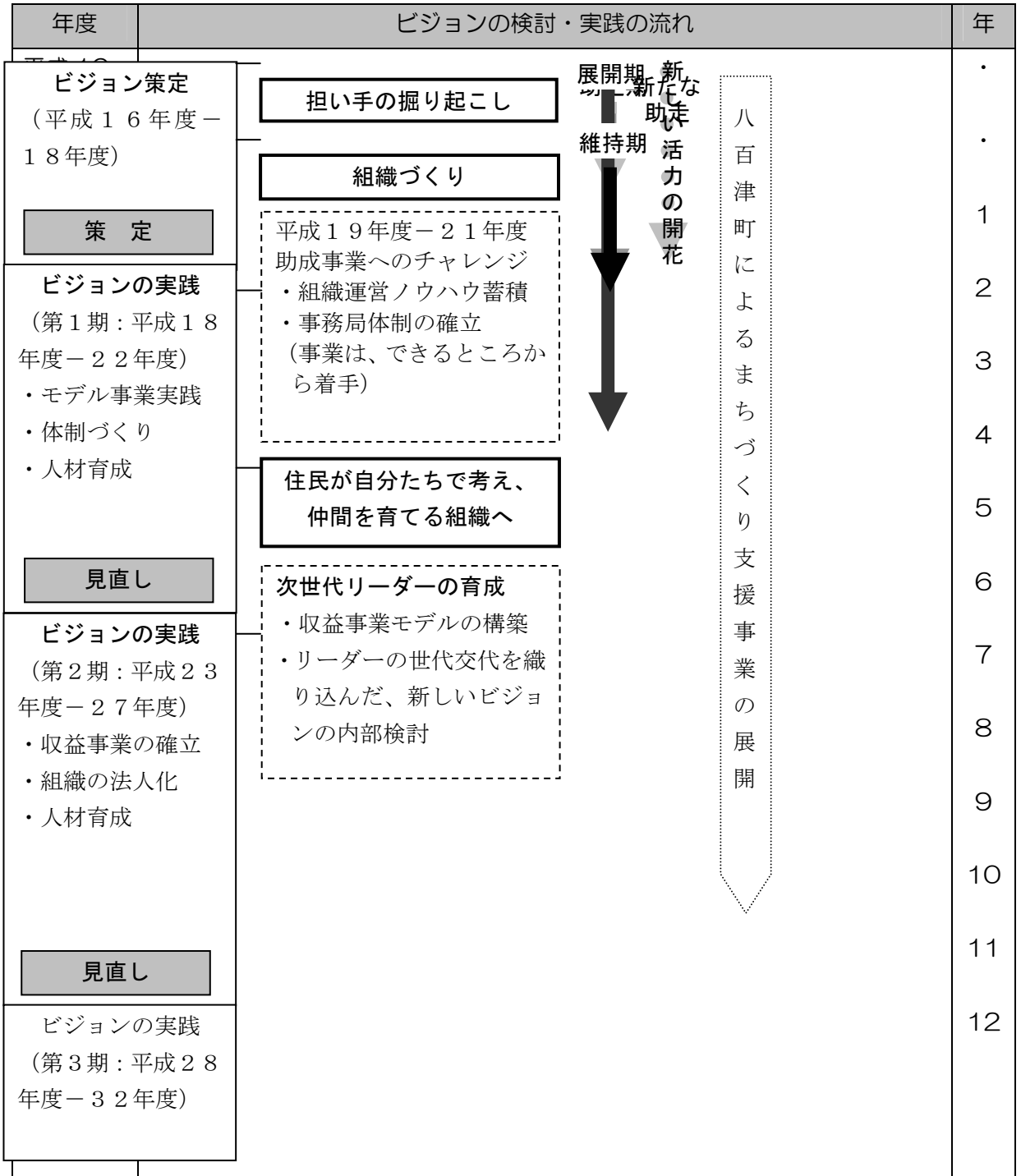
【中期】実現するのに、あるいは手を着けるのに準備の期間がかかるものや、慎重に進めるべきものは、検討期間を含み概ね5年から10年の事業期間内に実現するものとして取り扱います。

【長期】10年以内には手を着けるのが難しいものや、短期・中期の事業が前提となるものは、長期的に実現をめざすものとして取り扱います。

ビジョンの推進にあたっては、毎年進み具合を確かめ、5年ごとに各事業のフォローアップを行い、ビジョンの行動計画の見直しをします。

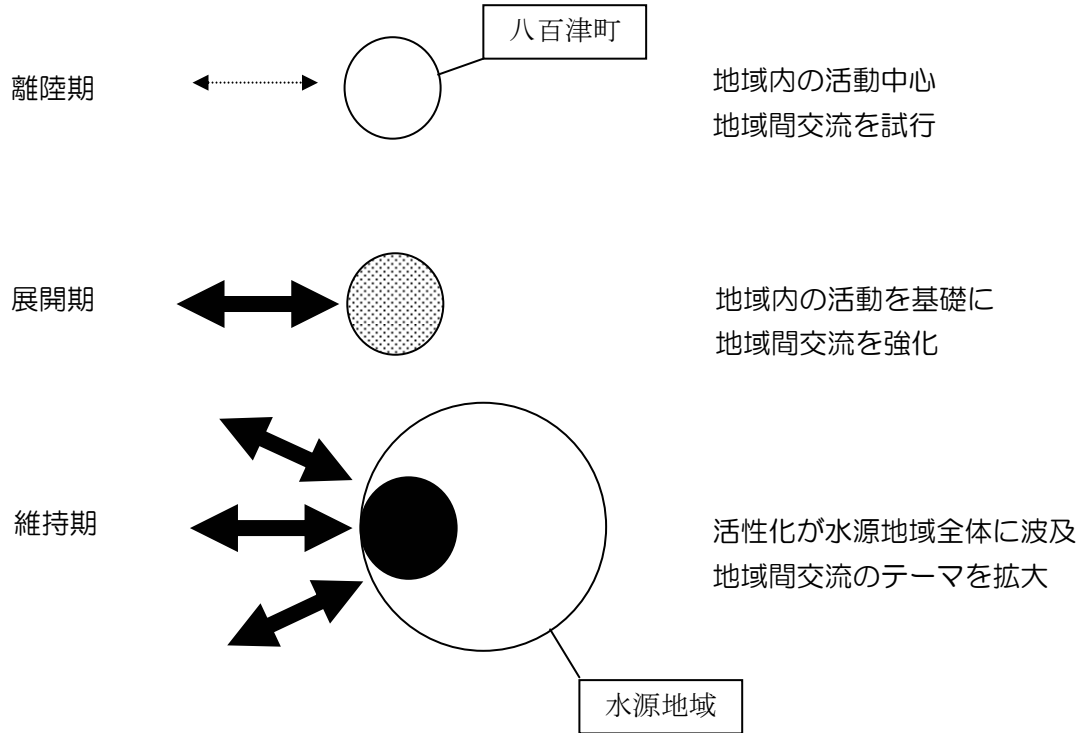
●ビジョンの達成時期

まちづくりは、長い時間をかけて進めるものです。特に、その担い手づくりや安定した組織づくりには時間がかかることから、ビジョンの実施時期に合わせて、助走期・離陸期・展開期、発展期の4つに区分して取り組み、実績を積み重ねていくものとします。



●地域間交流の展開イメージ（模式図）

まちづくり活動の成熟に合わせて、ビジョンに位置づけた交流事業を展開し、活性化の影響を水源地域全体に波及していきます。



●参考：水源地ビジョン策定の背景

丸山ダムは、国土交通省中部地方整備局が直轄で管理するダムです。そこで、丸山ダムの管理を行っている国土交通省丸山ダム管理所が、地域の関係者のみなさんとともにビジョンを考え、策定します。

○水源地ビジョンの概要

目標

ダムを活かした水源地の自立的・持続的な活性化を図るとともに、流域内の連携と交流によるバランスのとれた流域圏の発展を図る。

内容

地域の特色とダムを活かしたまちづくり支援を行う。また、水を軸にした地域間交流、地場産業の振興、豊かな自然・文化の提供等を行う。

手法

水源地ビジョンの策定・推進について、地方整備局が総合調整・支援を行うとともに、関係機関と連携し、人づくり・啓発活動、相談窓口の設置、情報発信等により水源地ビジョンの推進を図る。

●水源地ビジョンが策定されるようになるまでの全国的な流れ

- ・水源地対策懇談会（平成9年7月27日設置）
水源地の総合的な整備のあり方
（1）施設整備を中心としたものから水源地の自立的・持続的振興を支える組織・体制づくりへの転換
（2）流域全体の人々の理解と協力による流域全体の持続的発展
- ・21世紀の国土のグランドデザイン（平成10年3月31日閣議決定）
流域圏に着目した国土の総合的な整備の必要性への言及
- ・河川審議会答申（平成11年3月25日答申）
「新たな水循環・国土管理に向けた総合行政のあり方について」
流域を基本とした参加と連携の強化による国土管理の必要性への言及

2. 丸山ダム水源地域の特性

2-1 水源地域の特徴・資源

- 木曾川の上下流の結節点
- 衰退傾向にあるが、個性ある資源が豊富

(1) 水源地域としての八百津町

①濃尾平野と木曾山系の接する地域

丸山ダムは、木曾川が山地の渓谷を抜けて、濃尾平野に流れ出る境に位置しています。

このダムは、戦後わが国の復興を象徴する大型公共事業として注目され、大規模な工事で地域に大きな影響を与えましたが、建設されてから半世紀が経ち、今では周囲の自然にとけ込んでいます。

ダムが建設される以前、八百津は木曾川の水運の拠点でしたが、現在では幹線道路網の狭間に位置し、下流の兼山・可児方面と八百津を結ぶ鉄道も廃止されたため、広域的な交通体系からは離れた立地になっています。

その結果、通過交通が入り込まず、市街地にも大きな変化がなかったことから、昔の雰囲気伝える町並みや、歴史を感じさせる場所がたくさん残されています。

かつての繁栄の記憶は、勇壮で素朴な祭として引き継がれています。

②歴史は深い衰退傾向にある地域

丸山ダムが立地する八百津町は、昭和31年にいわゆる昭和の大合併で生まれたまちです。

人口は、ゆっくりと減る傾向にあり、今もその傾向には歯止めがかかっていません。戦後2万人以上いた人口が12,844人（国勢調査に基づく平成18年7月1日岐阜県による推計値）となり、少子高齢化が進んでいます。

それとともに、商店や事業所が閉鎖や移転するなど、地域経済の活力も低下する傾向にあります。日中は通勤・通学で近隣の美濃加茂市や可児市で過ごす人も多く、購買力も流出しています。

地場産業は、流通の拠点であったことや水質のよい水に恵まれたことなどから、醸造業など食品産業が盛んです。

農村部では、山では、戦後植林された人工林の管理が行き届かず荒れてきています。農地も傾斜地や集落から離れたところでは耕作放棄が進み、治水にも影響を与えるようになっています。

往年の繁栄を偲ばせる川湊の跡は史跡として指定され保存の対象となっていますが、多くの人を訪ねるようなにぎわいは生じていません。

(2) 地域の動き

①町役場の地域づくり支援

丸山ダム水源地域である八百津町では、行政（町役場）が、自治会や老人会など、既存のグループ・団体の活動支援するため、各地区単位で設置された夢おこし委員会を対象に、地域活動の担い手が持続して携わるしくみの提案や、予算を配分するなどの支援策を行ってきました。

また、和菓子やせんべいなどの地場産業が盛んなことから、商工会を中心に業種ごとに生産業者の組合があるなど、事業者の団体も複数あります。

しかし、高齢化の影響が高まり、既存の団体は、仲間を集めることやこれまで行ってきた活動を続けることが難しくなっているというような、共通の悩みを抱えています。

②住民の自発的な活動が始まっている

住民による自発的なまちづくり活動も始まっています。

八百津での新しいまちづくり活動の特徴としては、

- ・活動の財源を行政に依存せず、自立運営を指向していること、
 - ・他団体とのネットワークづくりを視野に入れていること、
 - ・目標が掲げられ、リーダーシップが明確となっていること、
- など、これまでの地縁社会のきずなだけに頼らない、目的指向型の自発的な新しい活動としての特徴を有しています。

*特徴ある、まちづくり活動の例

■がんばろまい“やおつ”

八百津は、木曾川の水運の拠点として育まれた歴史や、木材運搬の筏流しの技術を伝えることを目的に、有志が集まり、筏の復元、イベント、木曾川の岸の竹やぶ整備などを行っている。

■地域を支える女性のネットワーク会議

八百津町内の各地域のリーダーが集まり、従来町が行っていた成人式を手作りで企画運営、環境問題啓発をめざした買い物袋のマイバッグ普及などを進めている。

■NPOやおつ

八百津町で初めてのNPO法人で、高齢者などの移送サービスなど地域福祉活動に取り組んでいる。

④ユニークな資源

●ボランティアによる筏流しの再現

八百津夢おこし実行委員会・八百津筏復元実行委員会が中心となり、ボランティア団体「みんなでやろう有志会」のメンバーが、かつての木曽材の運搬に用いられていた筏を平成16年に復元製作し、筏流しを実演しました。

●八百津だんじりまつり・久田見まつりの保存継承

八百津のだんじり祭りは、別名けんかまつりといわれ、八百津の産土神である大船神社を中心に、4月第2土曜日に行われ、3つのだんじりが出ます。これらがつながると1つの大きな船になることなど、木曽川の水運で繁栄した名残が残っています。

その1週間後の土日には、久田見地区の神明・白鬚神社で久田見まつりが行われ、6両の山車で「糸切りからくり」が演じられ見物人を楽しませます。

●豊かな水を生かした地場産業

物資の集散地であることや恵まれた水質で、八百津は多くの食品産業があります。酢、みそしょうゆ、酒などの醸造業や、せんべい、栗きんとんに代表される和菓子、こんにゃくなどのメーカーが集まり、地域の特色となっています。

●オーナー制度による棚田の保全活動

八百津町内の北山上代田（かみだいだ）地区の棚田が、農水省による「日本の棚田百選」に選ばれたことをきっかけに、町役場が地元と話し合い、棚田オーナーを募集したところ、都市住民など応募が多数あり、農作業を通じた交流の輪が広がっています。

●近代化遺産としての旧八百津発電所

この発電所は、明治44年に建設された木曽川水系最初の発電所です。昭和49年に運転が休止され、その役割を終えたあと、八百津町郷土館となり、平成10年5月に国の重要文化財の指定を受け、旧八百津発電所資料館となっています。

●人道の丘

第2次世界大戦中、ナチスドイツの迫害から逃れるために、日本の通過ビザを求めてきたユダヤ人に対して、人道の見地から独自にビザを発給した地元出身の外交官、杉原千畝の業績を記念してつくられた記念館を中心に、公園が設置されています。

(3) 今後の展望

①地域の衰退傾向の継続

八百津の人口は、戦後ほぼ連続して減る傾向にあり、若年人口の減少傾向に変化がないことや、大規模な住宅供給も見込めないことなどから、今後も

続くものと考えられます。

産業についても、東海環状自動車道の部分開通により、近隣のより立地条件のよい工業団地では進出ブームが起きましたが、八百津ではその影響も一部にとどまっています。製造業では後継者があるところもありますが、商店街では経営者の高齢化が進みつつあり、店をしめるところも出てきています。

②名古屋・岐阜との交流

かつては鉄道で名古屋・岐阜方面と結ばれていましたが、名鉄八百津線が廃止され自動車中心の交通体系となっています。東海環状自動車道の開通により、名古屋・岐阜方面へ高速交通ネットワークへのアクセスが良くなりましたが、将来的には国道418号が恵那方面とつながることにより、東濃地域との交流も盛んになると考えられます。

③自治の枠組み

いわゆる平成の合併において、八百津町でも美濃加茂市など近隣の市町との合併構想が検討されましたが、結果的に白紙撤回され当面は単独で行政運営することとなっています。この過程で住民の自治意識も高まり、まちづくり活動が活発となりつつあります。

2-2 水源地域の課題

- 地域住民の暮らしを尊重し、自発的な取り組みを振興する
- 関係者間の協力意識をネットワークとして交流の枠組みに高める

(1) 地域間の交流を拡大する

①現在の取り組み

●現状

八百津町では、木曽川の水供給を受ける愛知用水の終点が愛知県南知多町であることから、取水口のある八百津町との自治体単位での交流を進めてきました。また、杉原記念館を拠点として在住外国人との交流活動や、イスラエルなど海外からの訪問交流が行われています。

●問題点

丸山ダムの恩恵を受けている名古屋市など木曽川の下流域都市部との交流や、隣接する地域との、水をテーマとした自治体間や住民間の交流はそれほど活発ではありません。

●ヒント

町役場が企画した棚田オーナー制度は、小規模で実験的な要素が強いものの、都市住民のニーズを受け止め定着してきました。観光ボランティアガイドの活動も盛んで、地場産業や旧八百津発電所、丸山ダムなどは、八百津の外からも生涯学習ニーズの対象になっています。

②課題

●地域資源の再評価と新しい切り口による交流の創出

東海環状自動車道の開通によって、名古屋・岐阜からのアクセスが向上しました。交流を活発にしていくためには、交流事業の企画、PRの強化や案内板の整備などが必要です。

また、今ある資源のほかに、これからの新丸山ダム工事をきっかけに、水源地域の役割について、幅広く知ってもらえる機会をつくる必要があります。

(2) 暮らしやすい地域をつくる

①現在の取り組み

●現状

八百津町は、都市化の圧力から遠く、落ち着いた町並みや、山間部の自然環境などの個性がありますが、反面、活気に乏しく人口減少も歯止めがかかっていません。

●問題点

八百津町は、濃尾平野の奥という立地から、急激な都市化の波に洗われることは少なかったのですが、昔からの景観や歴史、人づきあいをまちづくりに生かし切れていない状況です。

●ヒント

ユニークで自発的な取り組みが住民から生まれてきており、これから先、住民主体のまちづくり活動に発展していく可能性があります。

②課題

●住民が主体となって地域づくりに取り組む機運づくり

まず、地元の人にとって暮らしやすいまちになるよう、暮らしの場としてのまちの魅力を高めることや、水に親しめるいこいの環境づくり、住民どうしのきづなとなるコミュニティづくりが必要です。

(3) 地域に根ざした産業を生かす

①現在の取り組み

●現状

農林業は、担い手の高齢化や放棄によって衰退する傾向にあります。田畑や山林の手入れが行き届かず、利用が難しくなっているだけでなく、後継者がいないことが多く、このままでは貴重な生産技術を後世に伝えることが難しくなってしまう。

商工業についても、事業者の高齢化が進んでいますが、地場産業の食品製造業では、後継者の育成が比較的進んでいます。

●問題点

魅力ある資源は多数存在するものの、地域全体で八百津の知名度を高めて

いくためのしくみや考え方が地域内で定着していないといえます。

●ヒント

農業では、棚田オーナー制度のように、体験農業など付加価値の高い運営が模索されています。また商工会では、八百津の名前を地域ブランドとして高めていく方向が打ち出されています。

②課題

●地域資源、人材の掘り起こし

商工会の取り組みなどを参考に、地場産業による八百津の知名度の向上や地域イメージの浸透などに取り組むことが必要です。

農林業など、住民の誇りや生きがいを活用した、新しい就労機会づくりを、地域振興の取り組みとあわせて進めることが必要です。

商業・サービス業では、生活ニーズにあった商業サービスにつとめることで、地域住民の支持をえることに加え、観光客の需要に対応した事業を創出していくことが必要となります。

3. 水源地域ビジョン

3-1 ビジョンの方向

水源地域の活性化は全国的な課題であり、昭和49年に水源地域対策特別措置法が施行され、これまでもさまざまな取り組みが行われてきました。

これまでの取り組みは、主として水源地域の社会基盤の整備に力点が置かれ、生活環境の改善などに大きな役割を果たしてきました。

しかし、人口の減少や高齢化、産業の衰退などへの対応や、地域に固有の特徴や資源を生かして、水源地域の将来を支える総合的な基盤づくりに対応していくことが課題となっています。

そこで、これからの水源地域の活性化に向けて、これまでの取り組みを活かしつつ、新たな地域課題に対応して、ソフト面での取り組みを強化して、継続的にとりこんでいくことが重要となっています。

3-2 ビジョンのコンセプト

丸山ダムの水源地域は、八百津町を中心に豊かな自然と歴史、地場産業に恵まれた、魅力ある地域です。国土交通省丸山ダム管理所では、これらの資源を生かして、水源地域の自治体、住民などと共同で、水源地域活性化のための行動計画として、次のようなコンセプトに基づき水源地域ビジョンを策定します。

かわみなと
水・人・まちがふれあう、『川湊』
丸山ダムがつなぐ、木曽川上下流の交流圏づくり

『川湊』とは、数多くの内陸の港を意味する地名「八百津」にちなんだことばです。

木曽川による上下流交流によって栄えてきた歴史を起点に、これからの水源地域のまちづくりを進めよう、という想いが込められています。

3-3 ビジョンの実現方策

ダムを活かした水源地域の活性化に向けて、次のような取り組みを行うものとします。

なお、実施期間が短期（策定から2、3年程度）で、かつ主体や準備状況などの点で熟度が相対的に高く、早期着手の可能性が高いものを選んで、それぞれの実現方策について進め方のイメージを文章としてプロジェクトごとに描きました。

1. まちのにぎわいづくり

主 体 プロジェクト名	期間	具体的方策	協働関係者					内容
			住民グループ・団体	企業・各種組合	学校	行政	丸山ダム管理所等	
1. 地域情報の提供、魅力のPR	短期	観光拠点での地域情報PR	○			●		
		テーマ性の高い観光コースづくり	●			○		
		住民グループ活動への相互参加	●					p. 19
		国交省の電光掲示板の活用					●	
	中期	統一された案内標識・看板の整備	○			●		
		地場製品の紹介施設の設置		●		○		
	長期	八百津祭り、久田見祭りの継承支援	●			○		
語り部による世代間の体験の伝承		●						
2. 観光客の受け入れ機能の整備	短期	観光施設の飲食・休憩スペース化				●		p. 20
		公衆トイレの整備・駐車場の管理	○			●		
		キャンプ場跡地の利用案づくり	●					
		有志による観光パンフレットづくり	●					
	中期	町営宿泊施設の活用				●		
		公園を利用した森の中の結婚式	○			●		
	長期	空き店舗を利用した観光案内所	●					
		観光向けトロッコの復元	●			○		
観光拠点を回遊するミニバスツアー		●						
3. 環境美化、景観づくり	短期	観光拠点を結ぶ道路の清掃・美化	●			○		p. 21
		ガーデニングによるまちかど緑化	●			○		p. 22
	中期	八百津地区の歴史的景観の保全	●			○		
	長期	町並みを生かした商店街への集客		●				
4. 地場産業の振興	短期	イベント時の特産品の屋台販売	○	●				p. 23
	中期	地場製品のブランド化		●				
		流木の資源化・有効活用				○	●	
		郷土文化や食材の普及活動	●	○				
長期	地場製品の売り場づくり		●		○			

短期：着手後すぐから2、3年程度、中期：数年程度、長期：10年程度あるいは常時するもの
 ●：中心となって実施、○：活動への参加や支援

2. 川・ダムを活かした魅力づくり

主 体 プロジェクト名	期間	具体的方策	協働関係者					内容	
			住民グループ・団体	企業・各種組合	学校	行政	丸山ダム管理所等		他地域等
1. 水辺・湖面の利用	短期	ダム湖の水辺空間の整備活用	○				●		
		水上スポーツの振興	○	○		●	○		
		不法投棄防止啓発活動の実施	○			●			p. 24
		筏乗りの技術と文化の伝承	●		○				
	中期	木曾川沿いの道路の遊歩道化				●			
		ダム湖面利用のルールづくり	○	○			●		
	長期	公設つり場の整備				●			
2. 川に関する史跡の活用	短期	郷土資料館周辺の花づくり	○			●			p. 25
	中期	綱場跡の史跡保全整備	○			●			
	長期	放水口発電所の修復公開				●			
3. 川・ダムに親しむ機会づくり	短期	森と湖に親しむ旬間の活用					●	○	p. 26
		イベントや行事との連携企画	●	○					
	中期	新丸山ダムの工事見学ツアー					●	○	
	長期	ダム・発電所の見学メニューづくり					●		
4. 水資源を守る山や農地の保全	短期	ダム湖に面した里山の整備	●	○					p. 27
		間伐材の利用促進活動	●	○		○			
		竹やぶの整備と竹材の利用	●			○			p. 28
		CO2吸収林づくり	○	○		○		●	
	中期	ダム管理所の緑化・花づくり					●		
		耕作放棄地の交流農園化	●					○	
		桜・もみじの名所づくり	○			●			
長期	環境モニタリング活動	●		○					
5. ウォーキングコースの活用	短期	ウォーキングイベント				●			p. 29
	中期	ウォーキングルートの協働による管理	●			○			
		ウォーキングルートのネットワーク化				●			
	長期	木曾川沿いの遊歩道の設置				●			

短期：着手後すぐから2、3年程度、中期：数年程度、長期：10年程度あるいは常時するもの
 ●：中心となって実施、○：活動への参加や支援

3. 交流ネットワークづくり

主 体 プロジェクト名	期間	具体的方策	協働関係者					内容
			住民グループ・団体	企業・各種組合	学校	行政	丸山ダム管理所等	
1. 交流事業おこし	短期	各種団体・住民グループ間の交流	●					p. 30
		地域づくり人材バンクの登録推進			●			p. 31
		ビジョン推進事務局の設置運営	●					
		ボランティア・NPO活動への支援			●			
	長期	シニア世代の地域活動の場づくり			●			
2. 地域内での交流活動の推進	短期	“まちづくり八百津” ネットワークのPR	●					p. 32
	中期	地域づくり勉強会の開催	●					
		ミニコミ誌の発行	●					
		各種団体・住民グループの年間行事カレンダーづくり	●					p. 33
	長期	地域間交流ノウハウの相互紹介	●					
長期	住民活動の拠点づくり	●						
3. 地域外との交流活動の推進	短期	交流を通じた広域連携の拡大			●			p. 34
	中期	河川学習メニューの開発				●		
		木曾川をテーマとする勉強会	●					
	長期	農林業体験ステイ	●					
		上下流地域・近畿地方との交流活動	●					

短期：着手後すぐから2、3年程度、中期：数年程度、長期：10年程度あるいは常時するもの
 ●：中心となって実施、○：活動への参加や支援

1. まちのにぎわいづくり

1-1. 地域情報の提供、魅力のPR

1-1-1. 【1】住民グループ活動への相互参加

住民グループ・団体主催の活動に、別の団体のメンバーが相互に参加することを通して、それぞれの活動を活発にします。

【背景】

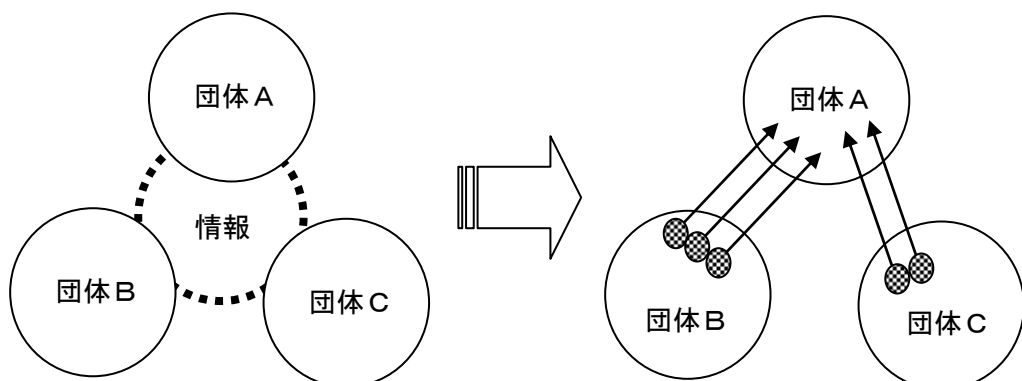
- ・八百津では、いくつもの住民グループによる自発的な活動が活発に行われています。一方、活動のPRや参加者集めも大変な作業です。
- ・このビジョン策定のワークショップがきっかけとなり、地域の多数のグループ間の話し合いの場「“まちづくり八百津”ネットワーク」が組織化されました。
- ・その成果として、花壇整備や竹いかだレースなどにおいて、それぞれの活動の間で担い手の相互参加が始まりつつあります。

【進め方】

- ・“まちづくり八百津”ネットワークなどを利用して、各団体どうしが活動予定を相互に知らせ合うようにします。
- ・他団体の活動への参加は、団体全体としてではなく、メンバー個人が判断することを、共通のルールとします。

【活性化への期待】

- ・事前のPRへの協力、イベントや行事への参加者の確保など、活動が活性化します。
- ・活動への参加を通して、団体相互の人脈が広がることや、他団体の活動目標や担い手への理解が深まります。



日頃から各団体の活動情報を共有

別団体の活動に他団体から個人単位で参加

1-2. 観光客の受け入れ機能の強化

1-2-1. 【2】観光施設の飲食・休憩スペース化

郷土資料館など、一定の条件をもつ観光施設の利用条件を緩和し、観光客が食事や休憩で気軽に利用できるスペースにします。

【背景】

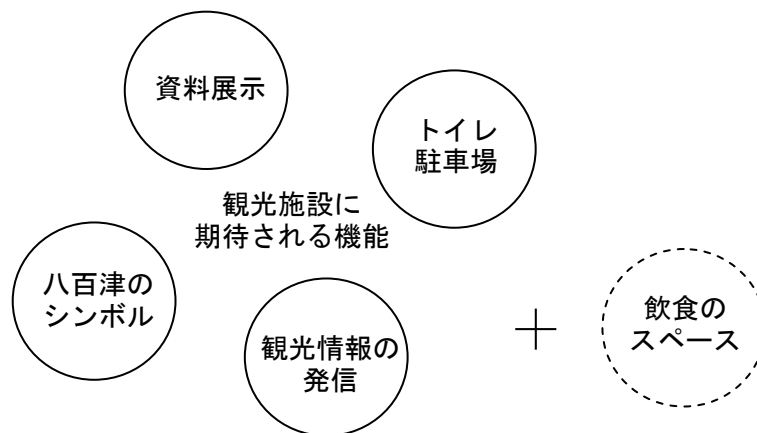
- ・八百津は、岐阜や名古屋からの気軽な訪問先として、テレビの旅番組などで取り上げられる機会が増え、来訪者もよく目にするようになりました。ただ、観光地としては、まだ昼食をとる場所が少ないという指摘があります。
- ・町内には、人道の丘公園や郷土資料館など、魅力ある施設があります。どちらの施設も展示中心ですが、人道の丘公園には山荘と呼ばれる町管理の集会施設があり、郷土資料館は広い内部空間に恵まれています。

【進め方】

- ・それぞれが本来もつ機能を妨げない範囲で、施設をPRする目的で、実験的に観光客の飲食や休憩の場所としての利用を試みます。
- ・利用者の評価や住民の意見、施設の運営状況などを参考に、これらの施設の飲食・休憩スペース化のルールをつくり、一般に開放します。

【活性化への期待】

- ・新たに休憩施設をつくるには、設置するスペースや大規模な投資も必要となりますが、既存施設を活用すれば、比較的容易に確保できます。
- ・観光客が飲食スペースを求めて施設に立ち寄り、施設の展示を見て帰るなど、施設の利用促進につながります。



1-3. 環境美化、景観づくり

1-3-1. 【3】観光拠点を結ぶ道路の清掃・美化

国道418号など、主要な観光ルートを中心に道路の清掃や花かざりなどの美化活動を行います。

【背景】

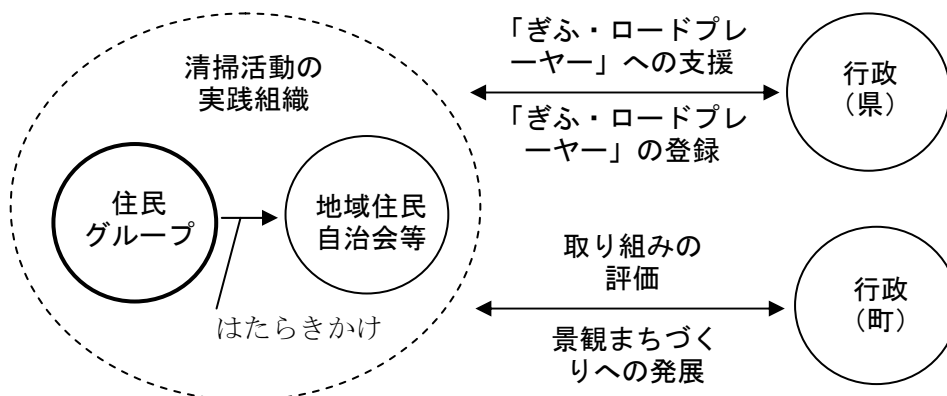
- ・八百津には五宝滝と人道の丘など観光拠点がたくさんありますが、場所が離れているので、観光客は国道418号などをひんぱんに利用しています。
- ・これらの一部は、岐阜県の制度を受けた「ぎふ・ロードプレーヤー」団体が、定期的に清掃活動をしています。全路線が対象とはなっていません。
- ・また、住民グループが中心となって、丸山トンネルそばの花壇と、その付近の道路を清掃、整備する取り組みが始まりました。

【進め方】

- ・住民が中心になって、観光客がよく利用する道路で、手入れが行き届いていない箇所を調べます。
- ・地元の自治会や住民と話し合いをもち、協力を得て実際に清掃活動を行います。
- ・活動への意欲が高まったら、グループとして「ぎふ・ロードプレーヤー」に登録するなど、続けるためのしくみをつくります。
- ・住民の意欲が続くように、活動するグループ・団体の表彰や名称の掲示、広報での活動紹介などを行います。

【活性化への期待】

- ・観光地だけでなく、観光拠点をつなぐメインルートを含めたまち全体の美観を保つことで、観光客からの評価が高まります。
- ・住民どうしが力を合わせてまちを美しく保つことで、ふるさとへの愛着心が育ちます。



1-3-2. 【4】ガーデニングによるまちかど緑化

住宅の庭や店先、道路端を寄せ植えや緑花で飾り、楽しみながらまちなみを美化します。

【背景】

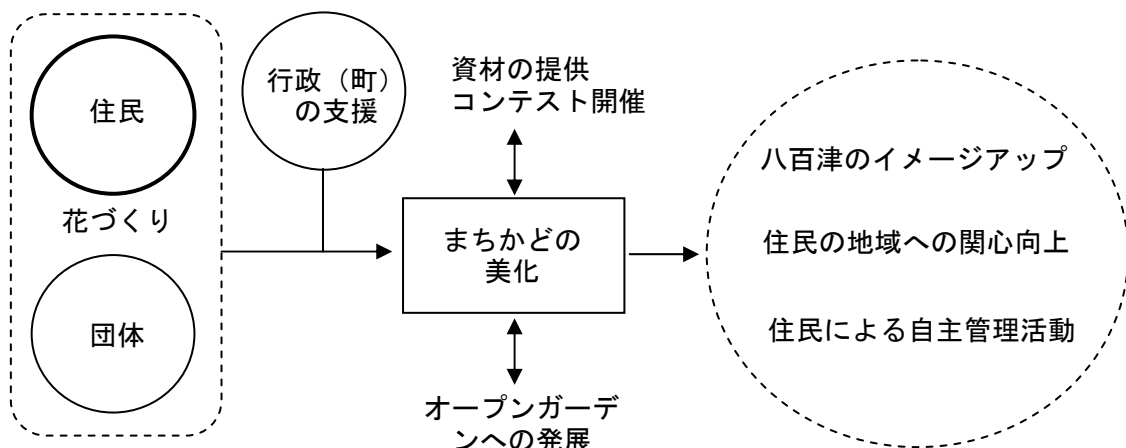
- ・寄せ植えや花づくりを個人的に楽しむだけにとどまらず、地域づくりに役立つ活動が各地で行われています。
- ・八百津では、商工会女性部などの店舗の店先や公共スペースでの花づくりや、夢おこし委員会による道路際での花壇づくりが取り組まれています。
- ・八百津町役場も、町へ寄贈されたインターロッキング用レンガを、各家庭や地域での花づくりの振興へ、希望者への配布、ガーデニングコンテストを進めています。

【進め方】

- ・個人を対象に、ガーデニングや花づくりの基礎知識の提供を行います。
- ・コンテストに応募された庭を広報などで紹介するとともに、住民参加によって観覧ルールを考えます。
- ・家庭や店舗の自慢の庭を一般に開放する、オープンガーデンとして発展させるなど、地域独自のまちづくりにより、住民の地域への愛着を高めます。

【活性化への期待】

- ・個人宅の庭や民間所有地、店先や事業所などあらゆるまちかどでガーデニングによる緑化が進むことにより、まちがきれいになり、人々の地域への誇りや愛着心、自信が育ちます。
- ・共通の話題で地域の方々が一緒に楽しみながらふれあい、地域どうして競い合うことで、コミュニティ意識が高まります。
- ・道路や公共施設など、公共空間の美化や管理について、住民が一定の役割を果たす機運づくりに役立ちます。



1-4. 地場産業の振興

1-4-1. 【5】 イベント時の特産品の屋台販売

イベント時など地域に人が集まるときに、八百津の特産品をPR、販売できるような屋台を出店します。

【背景】

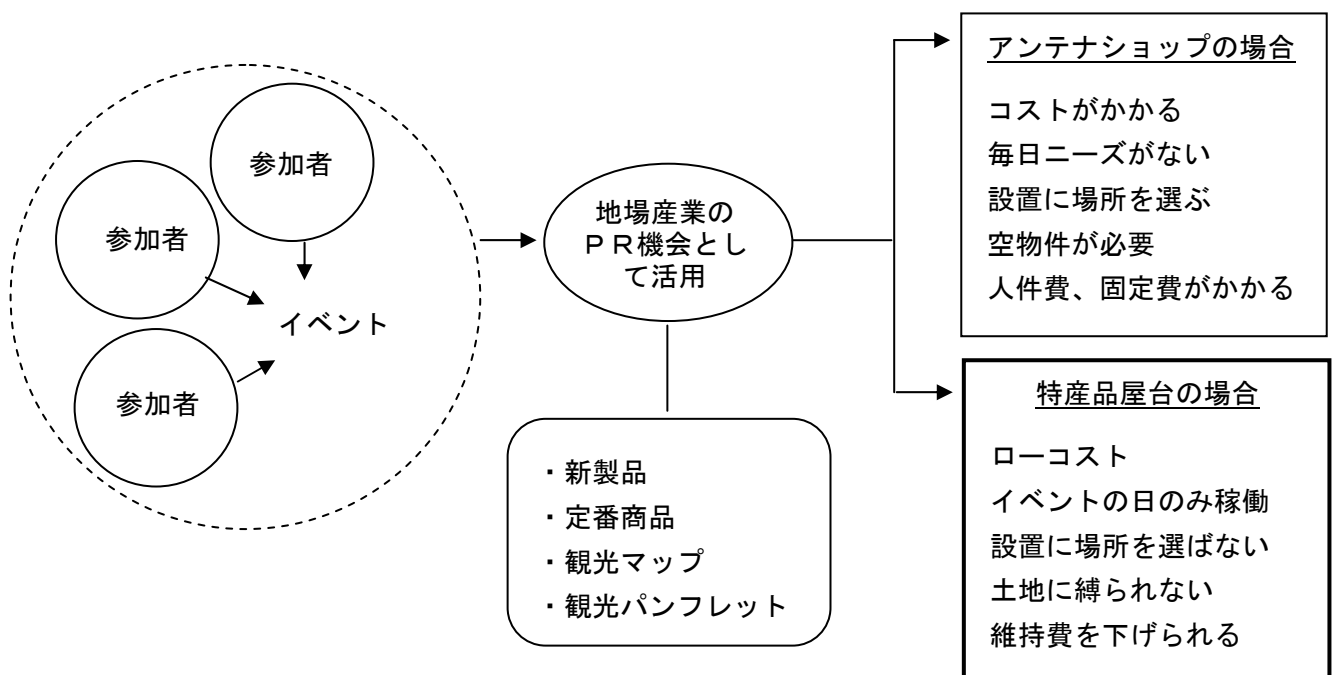
- ・八百津では、夏の川まつりのように、住民グループや団体、行政などが企画するさまざまなイベントが開かれ、地域外から人が集まる機会が多くあります。
- ・しかし、せっかく人が集まるのに、イベント会場では、地域の名産を紹介したり、おみやげを買う機会がないことがほとんどです。

【進め方】

- ・店舗は維持コストが高く、場所の移動もできないので、八百津の名産を一式揃えて、どこでも展示販売できるようなイベント用の屋台をつくります。
- ・屋台に出品する事業者や団体で運営組織をつくり、地域の住民組織などにも呼びかけ担い手グループをつくります。

【活性化への期待】

- ・販売収入がなくても、八百津の地場産品の知名度があがるとともに、パンフレットなどを渡せば、新規の顧客をつくるきっかけとなります。
- ・屋台のデザインの工夫や、機会があるごとに店して屋台そのものの知名度を上げることにより、イベントを盛り上げる要素となります。
- ・事業者にとってはイベント参加者とのふれあいや、商品の利用者の声を直接聞く機会となり、商品開発などのヒントを得ることができます。



2. 川・ダムを生かした魅力づくり

2-1. 水辺・湖面の利用

2-1-1. 【6】不法投棄防止啓発活動の実施

ダム湖などへのごみの不法投棄について実態を確認し、防止のための意識啓発を行います。

【背景】

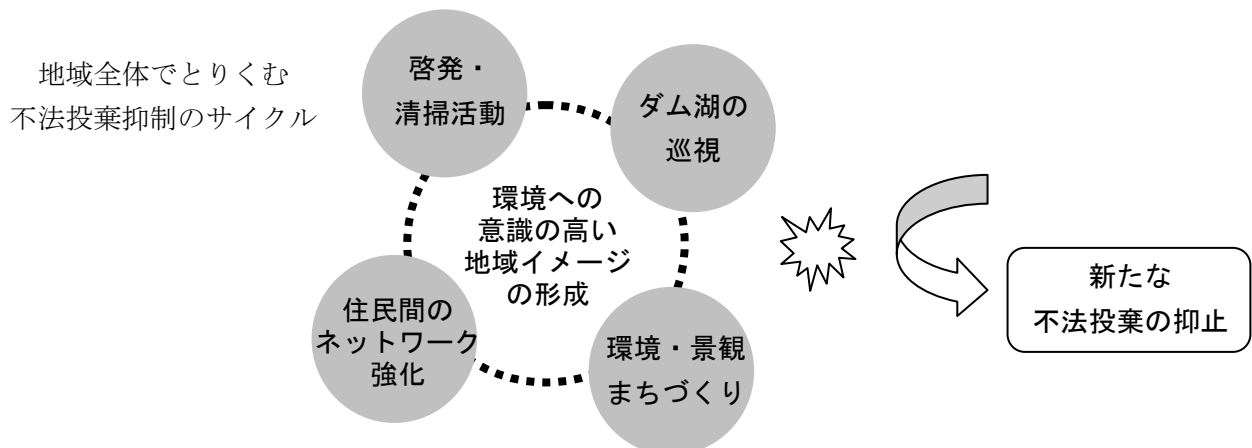
- ・ごみ不法投棄が各地で問題となっていますが、丸山ダムにおいてもダム湖等において同様の問題を抱えています。
- ・国土交通省丸山ダム管理所では、ダム湖面の管理者として、巡視船で不法投棄について厳しく監視しているほか、流れ着いたごみを回収・処分しています。
- ・住民グループとともに行った清掃活動の様子がCATVを通じて放映され、国土交通省丸山ダム管理所が、地域とともに歩む姿勢が広く伝わりました。

【進め方】

- ・地域で住民が進める清掃活動や花づくりに、国土交通省丸山ダム管理所の職員も積極的に参加し、地域ぐるみで環境を守る機運をつくります。
- ・地域との交流を通して、管理所と住民とのコミュニケーションを高め、不法投棄の実態について情報交換します。
- ・住民とともにダム湖を巡視するなど、ダム湖周辺での不法投棄の現状を住民に知らせる機会をつくり、防止のためのアイデアについて意見交換します。

【活性化への期待】

- ・住民の意識が高まることで、自治体や地域住民の不法投棄に対する監視が強まることで、「環境への意識の高い地域」としてのイメージが外部に伝わり、他所からのごみの持ち込みを抑えることが期待されます。
- ・管理所が行う水資源を守る活動への理解が高まるとともに、地域の一事業所として環境面で貢献します。



2-2. 川に関する史跡の活用

2-2-1. 【7】郷土資料館周辺の花づくり

郷土資料館の屋外スペースを生かして花づくりを進め、施設以外の魅力を高めます。

【背景】

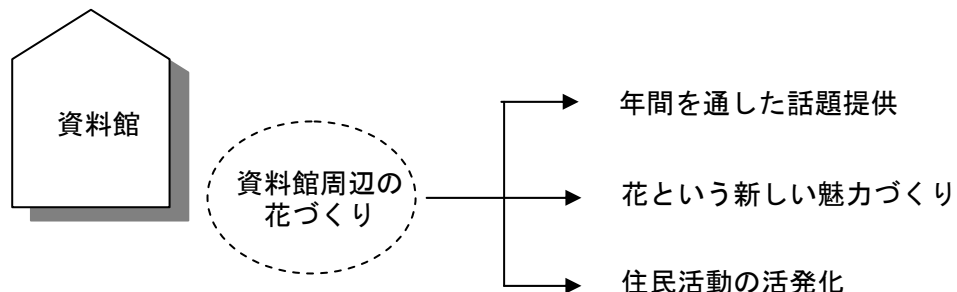
- ・ 旧八百津発電所資料館は、国の重要文化財に指定された建物そのものが貴重な史跡であり、季節や天候に左右されず通年集客できる観光資源です。
- ・ 屋内にはさまざまな展示がなされているほか、資料館の外にも、見学対象となる遺構があり、木曾川沿いの景観は大変魅力あるものとなっています。
- ・ 駐車場には桜ともみじが植えられていますが、建物周辺の緑地や駐車場にゆとりがあることから、四季に応じた花づくりを進めることで、新たな魅力が生まれます。

【進め方】

- ・ 住民有志と資料館の管理者に対し、郷土資料館の周辺の敷地に限定した花づくりのグループづくりを呼びかけます。
- ・ 水やりなど日頃の管理は資料館の協力を得ることが望まれるので、施設管理に当たられる方の意向をふまえて花づくりの活動を行います。

【活性化への期待】

- ・ 季節に応じた花の名所となることで、資料館や八百津の知名度が上がり、イメージが向上するとともに、利用客増が見込まれます。
- ・ 花づくり活動をきっかけに、住民どうしや資料館とのコミュニケーションが広がり、資料館を取り巻く地域が活性化します。



2-3. 川・ダムに親しむ機会づくり

2-3-1. 【8】森と湖に親しむ旬間の活用

施設の説明や湖面見学などを通して、丸山ダムの役割やこれから行われる新丸山ダム工事への理解を深めます。

【背景】

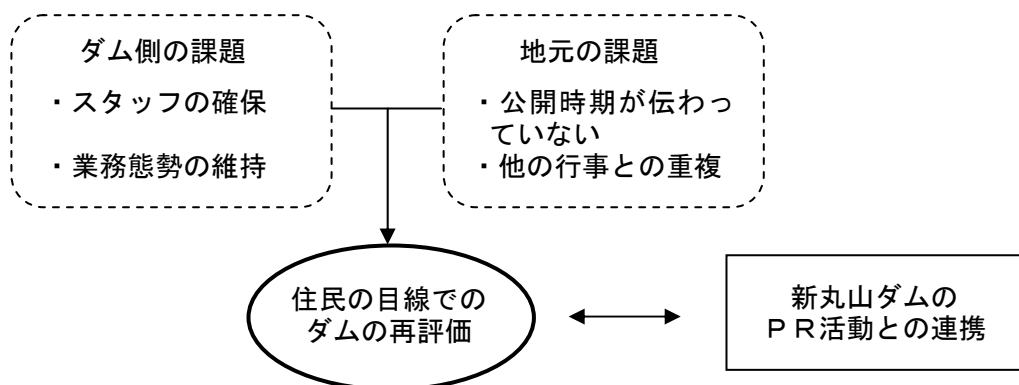
- ・丸山ダムは、本格的なダムのうち、平野部からみて名古屋・岐阜に近く八百津の市街地に近いことや、周囲に観光の場が多いことから、訪ねやすいことが特徴です。
- ・かつてダムが観光地だった時代には、ダム湖に遊覧船が操業するなど、多数の人が見学に来ていましたが、今は収支がとれないためありません。
- ・国土交通省丸山ダム管理所では、ダムの役割を知っていただくため、「森と湖に親しむ旬間」のほか、公開の機会を設けていますが、スタッフの確保などの制約があります。

【進め方】

- ・ダムの機能について、より理解が深まるような、一般向けの学習の機会をつくります。
- ・国土交通省の職員が語るだけでなく、地元住民が中心となって、ダムの意義について、住民の目線での案内をする「語り部」のようなしくみをつくります。

【活性化への期待】

- ・国土交通省の職員が総出で案内する体制から、住民と協力して案内する体制をつくり、日常の案内に生かしていきます。
- ・新丸山ダムの整備に向けて、生涯学習などの機会を国土交通省丸山ダム管理所として提供し、ダムについて理解を得る事業を進めることができます。



2-4. 水資源を守る山や農地の保全

2-4-1. 【9】ダム湖に面した里山の整備

ダム湖周辺の里山の整備に取り組む自発的な活動を育て、ダム湖をとりまく斜面を保全活用します。

【背景】

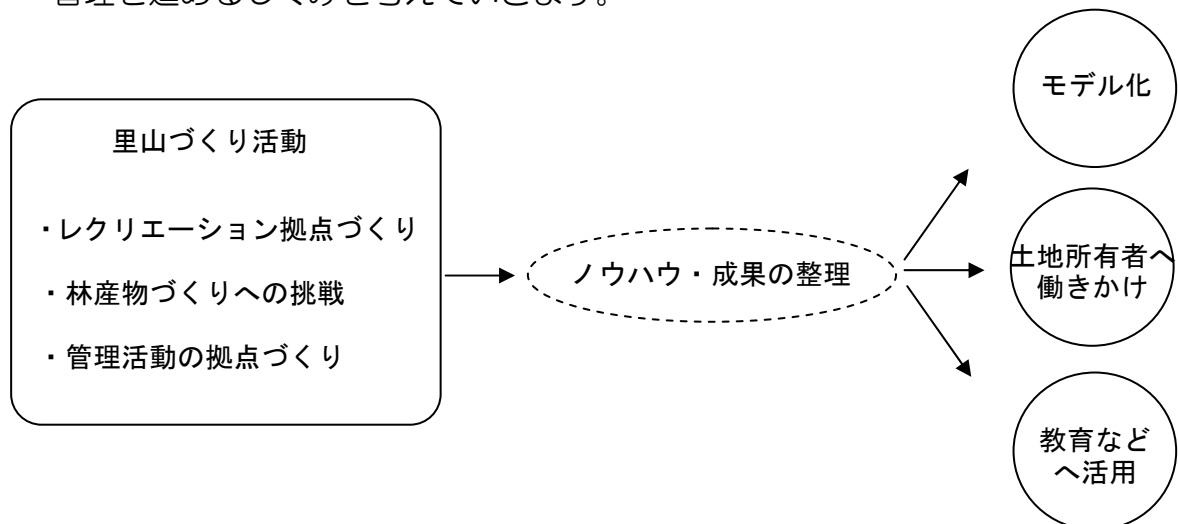
- ・ダムが役割を果たしていくためには、ダム湖に面した里山など斜面林を適切に管理していく必要がありますが、民有地では管理が行き届かない山林が増えています。
- ・最近になって、新しいまちづくり団体がこの問題に取り組み、レクリエーションの場づくりを兼ねた里山づくり活動が始まっています。
- ・国土交通省丸山ダム管理所を中心に、民有地においても里山整備が進むことで、水源地域の自然が守られ、二次林の利用の文化についても学べる場となることが、期待されます。

【進め方】

- ・新しく始まった取り組みをモデルとして、ダム管理者とまちづくり団体、ボランティアなどが意見交換をしながら、他の民有地でも管理活動が育つよう進めていきます。
- ・他のダム湖周辺の民間の土地所有者に対しても、里山管理の必要性を訴えていきます。

【活性化への期待】

- ・年配の方が持つ里山と関わる技術や文化を、次の世代を担う子どもたちに伝える機会が生まれます。
- ・里山管理のノウハウと担い手が育ったら、ダム湖周辺の他の民有の里山の管理を進めるしくみを考えていきます。



2-4-2. 【10】竹やぶの整備と竹材の利用

竹やぶを所有者の理解を得て整理するとともに、切り出した竹を素材としてさまざまな利用をします。

【背景】

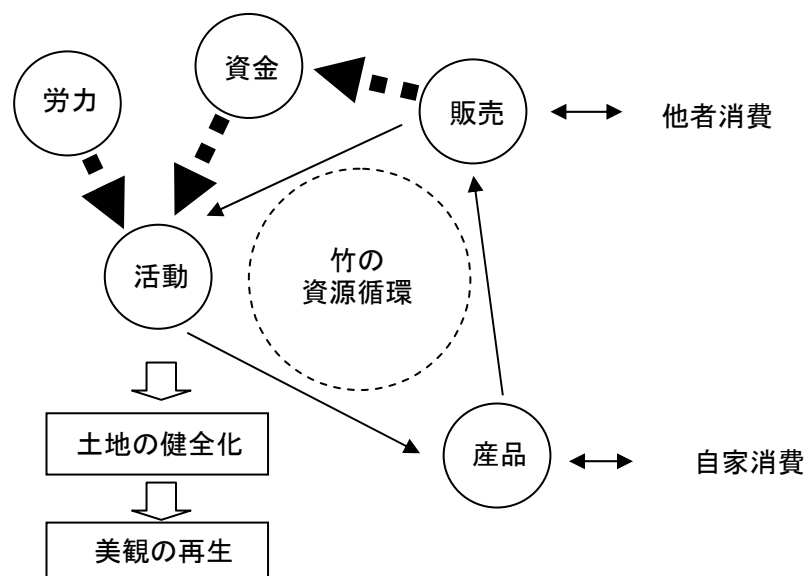
- ・竹は、かつては建築材料や道具類の材料として、日常生活でさまざまに利用するため、適度に刈り取られ管理されていましたが、今では生活様式が変わり放置され、荒れ放題になっているところが多くあります。
- ・竹は放っておくと茂る一方で、細い竹やぶになり景観に悪いだけでなく、他の植物を駆逐してしまったり、地盤が崩れる原因となったりもします。
- ・八百津では、ボランティアグループによる竹いかだレースなどが開かれ、ボランティアで竹を切り出すことや切った竹の活用を通して、地域に竹やぶの整備と竹材の利用をアピールする動きが始まっています。

【進め方】

- ・竹がもつさまざまな価値を見直し、竹を切ったあとの使い道をつくっていくことで、積極的に竹が切られ地域の中で消費されていくようなしくみをつくりまします。
- ・竹やぶの所有者が問題意識をもつことや、竹を切って生かすグループを育てていきます。

【活性化への期待】

- ・各地で竹を利用した製品がつくられています。今の段階では、竹を切り出し何らかの製品化をしても利益を得ることは難しいですが、余暇の充実などお金に換えられない価値を見いだせるような活動となることが望まれます。



2-5. ウォーキングコースの活用

2-5-1. 【11】ウォーキングイベント

既存のウォーキングルートを活用して、より利用しやすい環境づくりと活動の活発化を進めます。

【背景】

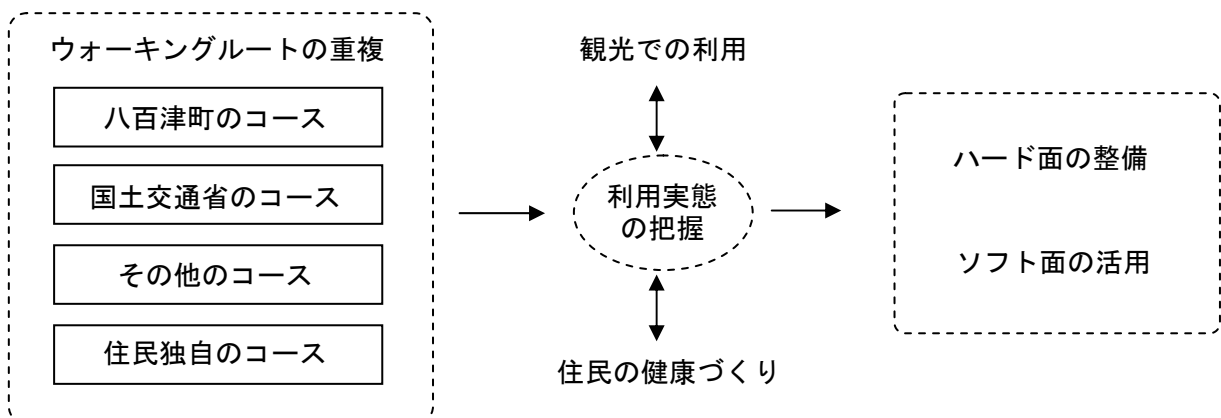
- ・丸山ダム周辺には、国土交通省丸山ダム管理所や八百津町、新丸山ダム工事事務所などが、ウォーキングルートをつくり、パンフレットの配布や「歩け歩け大会」などイベントを開いて利用を呼びかけています。
- ・それらは一部が重なっていますが、相互につなげることを意識してつくられたものではないため、利用する側に対する訴えかけが弱い状況です。
- ・一方で、健康志向の高まりもあり、八百津の市街地では夕方から夜にかけてウォーキングで健康づくりをする人も大勢みられます。

【進め方】

- ・よりウォーキングに親しんでいただく方が増えるよう、地域の住民が歩くことと観光客などが歩くことを分けてとらえ、振興策を考えることが重要です。
- ・今設定されているコースを基本に、歩く距離のめやすとなる目印や道標、みどころの解説板を立てるなど、実際に歩く人にとって役立つような情報提供を進めることが、今後のウォーキングの利用を進める上で大切です。
- ・イベントを通じたウォーキングのきっかけづくりや、イベント当日にまちづくり情報やダムのPRなどの機会とすることも大切です。

【活性化への期待】

- ・ゆっくりとまちや自然の中を歩くことで、地域の新たな魅力を発見する人が増えることが期待されます。
- ・地域の中を歩く人が増え、にぎわいが生まれ活性化により影響を与えます。



3. 交流ネットワークづくり

3-1. 交流事業おこし

3-1-1. 【12】各種団体・住民グループ間の交流

各種団体・住民グループ間の交流を進めます。

【背景】

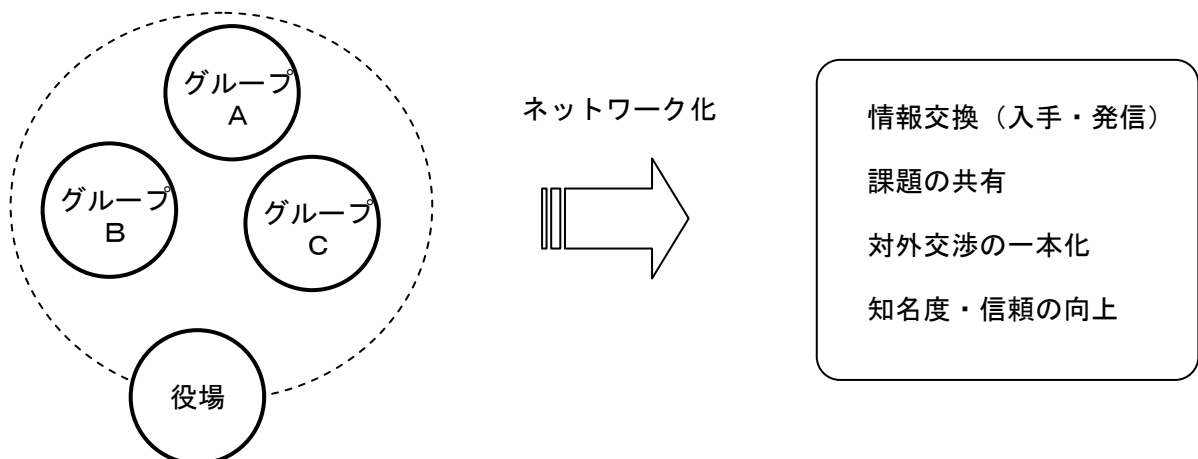
- ・全国的に地域づくり活動がさかんとなっていますが、八百津でも従来からある商工会青年部やライオンズクラブなど、地域活動に熱心な団体のほかに、メンバーの立場にとらわれないまちづくり活動が、自発的に生まれてきています。
- ・これらは、組織が生まれるきっかけはそれぞれ異なるものの、八百津をよくしていこう、という点では目標が一致しており、八百津町もこうした活動を積極的に支援しようとしています。
- ・ビジョンづくりのワークショップで出会った、これらのグループどうしが何度か話し合いを重ね、「まちづくり八百津」ネットワーク」という名前で有志が集まり、相互交流を始めています。

【進め方】

- ・各グループの自発性を尊重しながら、八百津町が進めるボランティア振興の施策とも協調して、まずこうした活動がそれぞれどのような方向で進められているのかを、地域住民に広く知っていただくことが大切です。
- ・グループどうしで、互いの活動をPRしたり、参加しあうなどできるところから協力していくことで、地域の中で地域づくり活動そのものが支えられる雰囲気づくりを進めます。

【活性化への期待】

- ・地域を支えるのは住民であり、住民による地域づくり活動そのものが地域の活性化につながっていきます。



3-1-2. 【13】地域づくり人材バンクの登録推進

地域づくりに熱心なグループのリーダーや、地域づくりに参加したい思いを持つ人の情報を登録制で整理し公開します。

【背景】

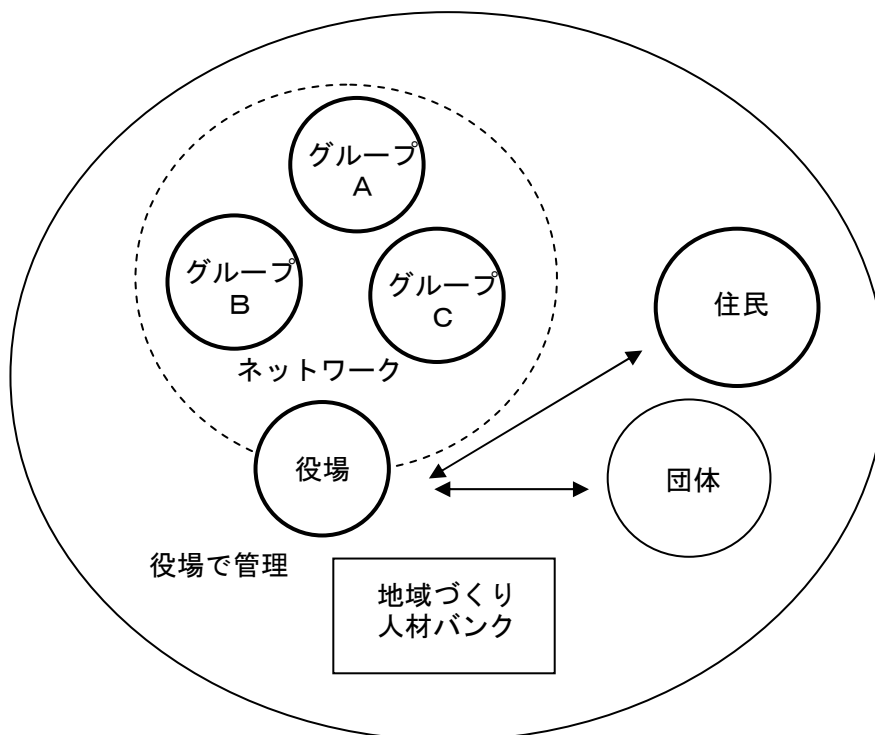
- ・地域の中には、さまざまな得意分野をもつ人が住んでおり、こうした人の力や行動が活性化には不可欠です。
- ・八百津では、お祭りなどで結ばれた人々のきずなは保たれてはいるものの、新しい課題に対応していくための人材のつながりをつくるために、そうした仲間を見つけられるしくみが求められています。

【進め方】

- ・八百津町では、役場が中心となって、ボランティア人材やグループを本人の了解を得て登録していくしくみを模索しています。
- ・こうしたしくみを積極的に住民が支え、住民が使いやすいように提案や情報提供していくことが必要です。

【活性化への期待】

- ・八百津には、木曾川や歴史ある町並みなど地域づくりを進める上で有利な資源がたくさんあります。これらを活用していく人とそのネットワークをつくることで、さらに地域づくりが進んでいくと考えられます。



3-2. 地域内での交流活動の推進

3-2-1. 【14】 “まちづくり八百津” ネットワークのPR

地域づくりグループどうしの交流の場を広く知っていただくためのPR活動を進めます。

【背景】

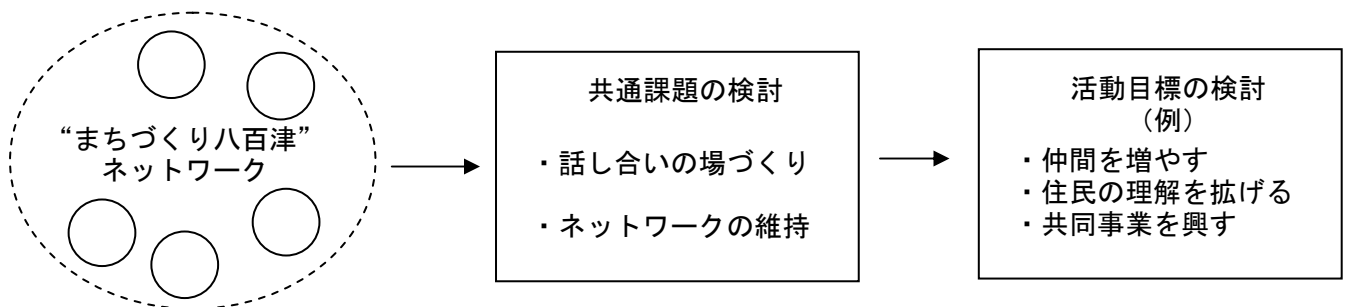
- ・住民による自発的な地域づくりグループどうしの交流の場、「まちづくり八百津」ネットワーク」で、行政も交えた交流が始まっています。
- ・この交流はまだ生まれたばかりであり、お互いにどのようなことができるのか模索している段階です。
- ・話し合いでは、まずお互いがよく知り合うこと、そして活動の存在を住民に広く知っていただくことが大事という点で意見が一致しています。

【進め方】

- ・地域の中でどのようなPRの方法があるか洗い出し、具体的な方法について考えていきます。
- ・八百津町でも、こうした動きを積極的に支える方針を出していることから、広報や産業文化祭などを利用するという方法も考えられます。
- ・組織の形が安定して、グループがいっしょに事業ができるようになれば、共同でのPR活動をめざします。

【活性化への期待】

- ・お互いの顔が見える地域社会の中であっても、なかなかそれぞれの活動を正確に理解することは難しく、情報の共有は大変重要です。
- ・PRを通してそれぞれのグループの共通の目標である、八百津をよくしていこう、という考えが行き渡ることで、さらに活動が活発化していくことが期待されます。



3-2-2. 【15】各種団体・住民グループの年間行事カレンダーづくり

地域の中で行われる祭りやイベント、各種行事を一覧できるカレンダーをつくれます。

【背景】

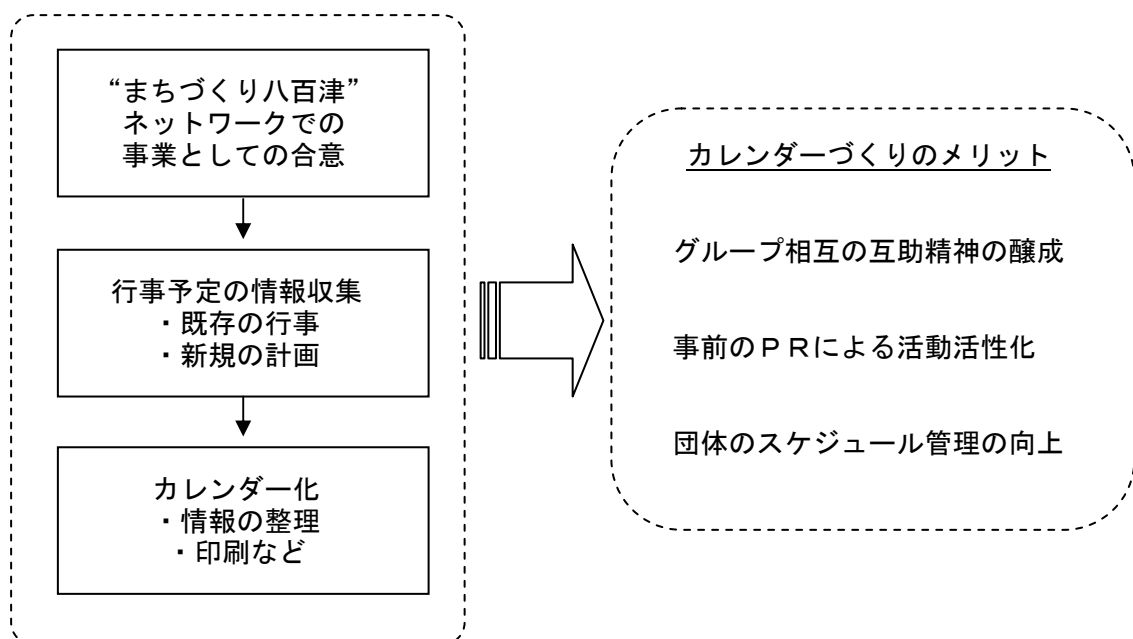
- ・八百津では、地域づくり活動がたくさんありますが、それらの活動情報は行政の広報で伝えきれていないのが現状です。
- ・そのため、おもしろそうな行事の日程が重なったり、活動を知ったのが実施された後になってしまう、といったことが、往々にして生じています。

【進め方】

- ・“まちづくり八百津” ネットワークのような、住民グループの情報が集まる場を生かして活動や行事の情報を集めます。
- ・集めた情報や地域に根付いた行事や祭りのスケジュールをカレンダーに落とし、八百津の年間行事カレンダーをつくれます。
- ・このカレンダーを、それぞれの活動グループが共有するとともに、折りにふれて互いの活動のPRに協力します。

【活性化への期待】

- ・活動の担い手が、地域の動きを把握することができ、グループでの活動のスケジュールを立てやすくなります。
- ・地域の中でそれぞれの活動が知られるようになり、大きなPR効果が期待できます。



3-3. 地域外との交流活動の推進

3-3-1. 【16】 交流を通じた広域連携の拡大

木曾川の水利用でつながっている愛知県南知多町との交流を、民間の力を生かしてさらに強化します。

【背景】

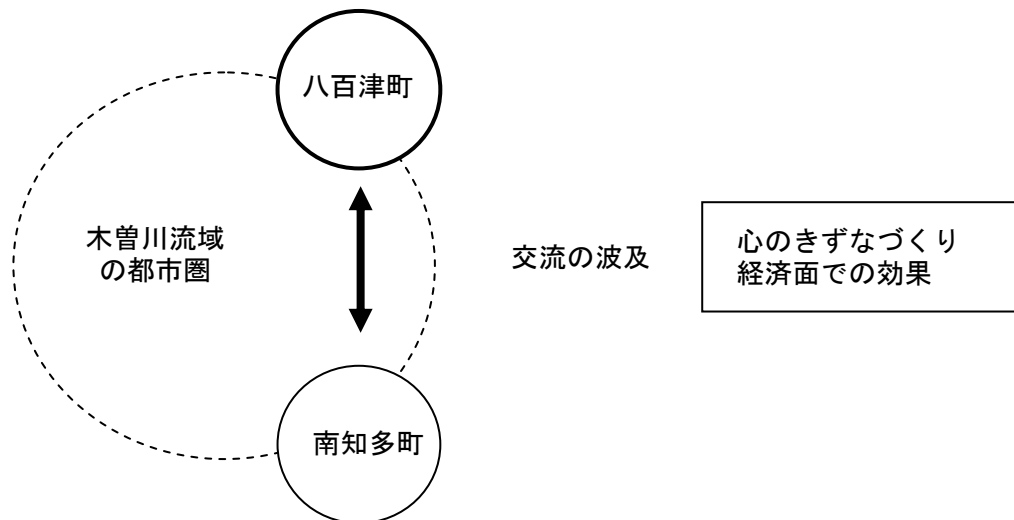
- ・ 愛知県の知多半島の先端に位置する南知多町は、八百津で取水している愛知用水の終点にあたることから、行政が主体となって相互交流活動が行われてきました。
- ・ これまでは、子どもの相互訪問や両地のイベントでの相互参加などが実施されてきましたが、イベント時以外での交流や、住民どうしの心のきづなづくりが課題となっています。

【進め方】

- ・ 八百津町が内陸であることに対し、南知多町は海の町であることから、それぞれが異なる産品を持っています。これらを交流の枠組みで相互に交換するなどの活動が考えられます。

【活性化への期待】

- ・ 南知多町との交流が深まることで、その途中にある愛知県の自治体との交流に拡げていくことも可能であり、また交流の意義からいっても取り組むことが望まれます。
- ・ ボランティア意識の高い都市近郊の住民などが、八百津の地域づくり活動に活動の場を求めることも可能性があり、積極的に交流を育てていくことが重要です。



4. ビジョンの実現に向けて

4-1 ビジョン実現の担い手

(1) 関係者のビジョン実現プロセスへの参画

①策定に関わった関係者の役割

水源地域ビジョンは、丸山ダムの水源地域住民や住民グループ・団体、行政や企業など、ビジョンに関連する関係者による主体的な推進が前提となっています。

そこで、ワークショップ、ワーキング会議、委員会など、ビジョン策定で議論に加わった関係者は、ビジョンに位置づけられた各主体の事業を、ビジョン実現という意味においても積極的に進めるものとします。

②ビジョンの推進に関係する主体の役割

水源地域内の主体で、ビジョン策定に直接参加しなかった主体については、事業を実施する際、できる限り参加を呼びかけ、担い手としての役割を担ってもらえるよう、関係者が努力するものとします。

また、水源地域の外にあたる木曾川上下流域や、近隣地域のグループ・団体、遠隔地の居住者などで、ビジョン推進に関心のある方や参加希望の方については、当面は水源地域で進める活動への参加やウェブサイト上での交流など、幅広い参加方法を通してビジョン実現に協力するものとします。

(2) ビジョン推進のための事務局の設置

ビジョンに位置づけられた事業は、実施においてできるだけ多くの主体が関わり、助け合って実現していくことが、このビジョンのめざす方向です。

ビジョンを推進する立場の水源地域のグループ・団体などには、事業に取り組むときに、ビジョン全体の実現を視野に入れて、一体的に進めることができる事業を調整して進めることが望まれます。

そのためのコーディネート機関として、「丸山ダム水源地域ビジョン・交流ネットワーク推進委員会」を設置し、関係者による組織的な運営を行います。

この組織では、住民、グループ・団体、行政など、ビジョンを進める主体となる方に参加を呼びかけ、それぞれが実施する事業を調整しながら、ダムの円滑な管理を含めて、全体が一体となって推進できるように進めます。

また、この組織に、ビジョンの総合調整のほか、事業実施における支援、事業に関する情報提供、参加の受付窓口など、ビジョン推進に関する事務的な役割を果たせるよう、機能を高めていきます。

また、この組織を中心に、意欲的なリーダーの発掘や人材・組織づくり、地域整備計画の情報収集、ビジョン推進に関する経験の共有などを進めるも

のとします。

4-2 ビジョン実現へのステップ

(1) 提言された事業の肉付け

ビジョンで示した事業については、それぞれ具体的にどう取り組むかを検討していくことが必要です。

今後、提言された事業を中心に、ビジョンの具体化を進めるためには、テーマだけが示されている活動メニューそれぞれについて、推進体制や協働のイメージなどについて、上記の推進委員会において、関係者による話し合いを進めます。

こうした話し合いの結果を参考に、

- ・主体や協働を期待する関係者
- ・取り組みの期間
- ・対象とする場所
- ・取り組みの内容

など、関係者の意向と実現への課題等を把握し、具体的な方策案としてまとめていくことが求められます。

(2) 協働の推進

ビジョンの策定プロセスで地域の中で生まれた、グループ・団体間での協力関係を基本として、ビジョンを策定した関係者どうしでの、さまざまな関わりが生まれます。

それぞれの事業に参加して事業をもり立てたり、企画段階から主体的に参画すること、いくつかのグループ・団体の間で、1つの事業にとりくむときに共通の目標を設定し、得意分野を生かして役割分担して活動を進めるなど、連携や協働により事業を広げ、効果的に実施することが重要です。

(3) 事業実施への支援

事業を進めていくときに、1つの組織だけでは事業に必要な人数や資金、道具などを揃えることが難しいことが多々あります。そういった場合に、資機材や人的なネットワーク・知恵、資金など、単独では不足する資源を相互に補い合うことも大切です。

特に、資金については、水源地域ビジョンに位置づけられた事業を対象とする国土交通省の支援事業や、その他、水源涵養のための支援事業、まちづくりでのネットワークづくりを支援する岐阜県の事業、自治体によるコミュニティやボランティア活動への支援策など、民間も含めてさまざまなメニューがあります。

これらを使うには、事業を進める主体が目的をはっきりさせて計画をつくり、収支も含めて成果を公表していくことが求められることから、こうした

作業に対応する事務作業での支援などが必要となります。

こうした作業について、先にあげた事務局が協力することや、行政が情報提供するなど支援していくことが必要です。